

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-026238

(43)Date of publication of application : 25.01.2000

---

(51)Int.Cl. A61K 7/02  
A61K 7/00  
A61K 7/48  
A61K 7/50

---

(21)Application number : 10-210369

(71)Applicant : POLA CHEM IND INC

(22)Date of filing : 09.07.1998

(72)Inventor : FUKUDA YASUHIRO

---

## (54) JELLY CLEANSING COSMETIC

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To prepare a cosmetic capable of removing not only oily soil but also aqueous soil by wash-off, and suitable for removing a makeup cosmetic having good cosmetic durability by compounding diglycerin tetraoleate and an isoparaffin.

**SOLUTION:** This cosmetic contains (A) diglycerin tetraoleate and (B) a 16-30C isoparaffin, and preferably further (C) diglycerin. For example, the cosmetic contains 0.1-30 wt.% of the component A, 1-30 wt.% of the component B and 5-20 wt.% of the component C, and optionally contains further a hydrocarbon such as vaseline or a micro crystalline wax, or an ester such as jojoba oil or spermaceti.

---

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 14.11.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3540165

[Date of registration] 02.04.2004

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-26238

(P2000-26238A)

(43)公開日 平成12年1月25日(2000.1.25)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

A 6 1 K 7/02  
7/00

識別記号

F I  
A 6 1 K 7/02  
7/00

テマコード\*(参考)  
A 4 C 0 8 3  
R  
C

7/48  
7/50

7/48  
7/50

審査請求 未請求 請求項の数4 FD (全6頁)

(21)出願番号

特願平10-210369

(22)出願日

平成10年7月9日(1998.7.9)

(71)出願人 000113470

ボーラ化成工業株式会社  
静岡県静岡市弥生町6番48号

(72)発明者 福田 泰博

神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1  
ボーラ化成工業株式会社横浜研究所内  
Fターム(参考) AC083 AC011 AC012 AC102 AC122  
AC182 AC262 AC402 AC421  
AC422 AC432 AC542 AD052  
AD112 AD222 AD392 CC01  
CC22 DD41

(54)【発明の名称】 ジェル状クレンジング化粧料

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 本発明は、近年の化粧持ちの良いメーキアップ化粧料を落とすのに好適なクレンジング化粧料を提供することを課題とする。

【解決手段】 ジグリセリンテトラオレートと炭素数16～30のイソパラフィンをジェル状化粧料に含有させる。このジェル状化粧料はクレンジング化粧料として大変好適である。本発明によれば、近年の化粧持ちの良いメーキアップ化粧料を落とすのに好適なクレンジング化粧料を提供することができる。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ジグリセリンテトラオレートと炭素数16～30のイソパラフィンを含有することを特徴とする、ジェル状化粧料。

【請求項2】 更にジグリセリンを含有することを特徴とする、請求項1に記載の透明ジェル状化粧料。

【請求項3】 クレンジング用化粧料であることを特徴とする、請求項1又は2に記載の化粧料。

【請求項4】 ウオッシュオフ機能を有することを特徴とする、請求項1～3の何れか一項に記載の化粧料。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、クレンジング化粧料に好適なジェル状化粧料に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 近年のメーカーアップ化粧料の創形化技術の進歩は、その化粧持続性を著しく向上させ、殆ど化粧直しを行わずに半日過ごせるような化粧料等が開発されている。しかしながら、この様な化粧持続の向上は、同時にその除去を困難にさせる副次的作用まで生み出しました。従来は、メーカーアップ化粧料は水中油乳化型であって液体の油脂成分を多く含有するクレンジング料によって除去されていた。しかしながら近年のメーカーアップ料に於いてはこの様なクレンジング化粧料による除去は必ずしも満足の行くものではない。この為、近年のメーカーアップ化粧料に適合したクレンジング化粧料の開発が望まれていた。

【0003】 一方、ジグリセリンテトラオレート及び炭素数16～30のイソパラフィンは何れも化粧品原料として広く使用され、特に油性汚れを除去するのに有用であることは知られていることであるが、これらを組み合わせること、及び、これらを組み合わせてジェル状クレンジング化粧料に含有させることにより、油性汚れのみならずウォッシュオフにより水性の汚れも除去できることは全く知られていなかった。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明はこの様な状況下でされたものであり、近年の化粧持続の良いメーカーアップ化粧料を落とすのに好適なクレンジング化粧料を提供することを課題とする。

## 【0005】

【課題の解決手段】 この様な状況に鑑みて、本発明者は、近年の化粧持続の良いメーカーアップ化粧料を落とすのに好適なクレンジング化粧料を求めて鋭意研究を重ねた結果、ジグリセリンテトラオレートと炭素数16～30のイソパラフィンを含有することを特徴とする、ジェル状化粧料にその様な性質を見いだし、発明を完成させるに至った。以下、本発明について、発明の実施の形態を中心に詳細に説明を加える。

## 【0006】

## 【発明の実施の形態】 (1) 本発明の化粧料の必須構成要素

本発明の化粧料は、ジグリセリンテトラオレートと炭素数16～30のイソパラフィンを含有し、ジェル状であることを特徴とする。この様な形態をとることにより、本発明の化粧料は、優れた油性汚れと水性汚れの除去能力を有する。又、ウォッシュオフも可能となっている。ここでジェル状とは、半透明～透明な相から構成されている系であって、この様な系ではオイル、界面活性剤、多価アルコール及び水が一相になっている。

【0007】 本発明の化粧料の必須成分の一つである、ジグリセリンテトラオレートは、既に市販され油性汚れを落とす作用に優れる油剤として化粧料で使用されている。本発明の化粧料に於ける、ジグリセリンテトラオレートの好ましい含有量は、0.1～30重量%であり、更に好ましくは1～10重量%である。これは少なすぎるとクレンジング効果が現れない場合があり、多すぎると系の自由度を奪い、他の成分を含有させることが制限される場合があるからである。

【0008】 本発明のもう一つの必須成分である炭素数16～30のイソパラフィンは、化粧料に既に広く使用されているものであって、特に極性の低い油性汚れを落とすのに好適であることが知られている。この様なイソパラフィンの好ましい市販品としては、ウイトコ社製のクレアロールが好ましく例示される。通常使用されるイソパラフィンは炭素数16～21のものが殆どであり、本発明の化粧料で使用されるこのイソパラフィンは、炭素数の分布を見ても中心が22であり、分子量が通常のものより大きいのが特徴である。本発明の化粧料に於けるこのイソパラフィンの好ましい含有量は、1～30重量%であり、更に好ましくは5～20重量%である。これは少なすぎるとクレンジング効果が発揮されない場合があり、多すぎると透明ジェル相の形成を阻害することがあるからである。

## 【0009】 (2) 本発明の化粧料

本発明の化粧料は上記必須構成要素の全てを備えた化粧料であることを特徴とする。本発明の化粧料としては、クレンジング化粧料が特に好適に適用対象となるが、本発明の化粧料の油性成分に対しても、水性成分に対しても優れた分散・溶解性を有する性質を利用して、難溶性の有効成分を添加しこの生体利用性を高めることにも好適なので、通常の栄養化粧料やマッサージ用化粧料などにも適用可能である。これらも本発明の技術的範囲に属する。この様な難溶性有効物質としては、フィトステロールの配糖体が好ましく例示できる。このものはクレンジング料に含有させても好ましい。

【0010】 本発明の化粧料では、上記必須構成成分以外に、通常化粧料で使用される任意成分を、本発明の効果を損ねない範囲において、含有することが出来る。この様な任意成分としては、ワセリンやマイクロクリスタ

リンワックス等のような炭化水素類、ホホバ油やゲイロウ等のエスチル類、牛脂、オリーブ油等のトリグリセライド類、セタノール、オレイルアルコール等の高級アルコール類、ステアリン酸、オレイン酸等の脂肪酸、グリセリンや1,3-ブタンジオール等の多価アルコール類、非イオン界面活性剤、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、エタノール、カーボール等の増粘剤、防腐剤、紫外線吸収剤、抗酸化剤、色素、粉体類等が好ましく例示できる。かかる任意成分で特に好ましく含有されるのは、ジグリセリンであり、その好ましい含有量は5~20重量%であり、更に好ましくは10~15重量%である。これはこの範囲に於いて、優れた透明ゲル相を形成するからである。この様にジェルの形成やその安定化に有効な成分としては、蔗糖脂肪酸エステルやイソステアリン酸のトリエタノールアミン塩等が例示でき、これらを含有することも本発明の\*

イ

グリセリルトリイソオクタネート  
クリストール70  
(炭素数16~22のイソパラフィン、ウィトコ社製)

クレアロール	1.0	重量部
ジグリセリンテトラオレート	3	重量部
POE(20)セチルエーテル	0.5	重量部
POE(10)硬化ヒマシ油	2	重量部
POE(10)オレイン酸エステル	0.3	重量部
POE(20)POP(30)-		
2-デシルテトラデシルエーテル	3	重量部
蔗糖脂肪酸エステル	1	重量部
POE(12)イソステアリン酸エステル	2.5	重量部
イソステアリン酸	1.8	重量部
フィトステロール配糖体	5×10 <sup>-5</sup>	重量部

ロ

ジグリセリン	1.2	重量部
1,3-ブタンジオール	1.5	重量部
エタノール	1	重量部
トリエタノールアミン	1	重量部
水	3.1	重量部

【0013】<実施例2>上記実施例1のクレンジングクリームについて、そのクレンジング効果とウォッシュオフ性を専門パネラーを使用し評価した。即ち、クレンジング効果は、化粧持ちの良いリップカラーを上腕内側部に塗布し、クレンジング化粧料0.1gを用いて4回手指で擦過した後、カット綿で拭ってクレンジングし、その残り具合より、++:完全に落ちている、+:殆ど落ちている、±:やや残っている、-:かなり残っているの基準で判定した。又、ウォッシュオフ性は、上腕内側部にクレンジング化粧料0.1gを塗布し、25℃の水を3分間流した後、軽くガーゼで拭い、残り具合を感触で調べ、++:全く残っていない、+:殆ど残っていない、±:やや残っている、-:かなり残っているの基

\*化粧料として好ましい。本発明の化粧料に於けるこれらの成分の好ましい含有量は、蔗糖脂肪酸エステルが0.1~10重量%であり、更に好ましくは0.5~5重量%である。又、イソステアリン酸のトリエタノールアミン塩が0.1~10重量%であり、更に好ましくは1~5重量%である。本発明の化粧料は、これらの成分と上記の必須成分とを通常の方法で処理することにより、製造することが出来る。

## 【0011】

10 【実施例】以下に実施例を示して本発明について更に詳細に説明を加えるが、本発明がこれら実施例にのみ限定を受けないことは言うまでもない。

【0012】<実施例1>以下に示す处方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、イ、ロをそれぞれ70℃に加熱溶解し、イにロを徐々に加え、これを攪拌冷却し透明ジェル状の化粧料を得た。

イ	グリセリルトリイソオクタネート クリストール70 (炭素数16~22のイソパラフィン、ウィトコ社製)	1.0	重量部
クレアロール		4.7	重量部
ジグリセリンテトラオレート	1.0	重量部	
POE(20)セチルエーテル	3	重量部	
POE(10)硬化ヒマシ油	0.5	重量部	
POE(10)オレイン酸エステル	2	重量部	
POE(20)POP(30)-	0.3	重量部	
2-デシルテトラデシルエーテル			
蔗糖脂肪酸エステル	3	重量部	
POE(12)イソステアリン酸エステル	1	重量部	
イソステアリン酸	2.5	重量部	
フィトステロール配糖体	1.8	重量部	
水	5×10 <sup>-5</sup>	重量部	
ロ			
ジグリセリン	1.2	重量部	
1,3-ブタンジオール	1.5	重量部	
エタノール	1	重量部	
トリエタノールアミン	1	重量部	
水	3.1	重量部	

40 準で判定した。尚、比較例1は実施例1のジグリセリンテトラオレートをクレアロールに置換したものであり、比較例2はジグリセリンテトラオレートをグリセリルトリオレートに置換したものであり、比較例3はクレアロールをジグリセリンテトラオレートに置換したものであり、比較例4はクレアロールをクリストール70に置換したものである。結果を表1に示す。これより、本発明のクレンジング化粧料はクレンジング効果とウォッシュオフ性に優れることがわかる。またこれは、ジグリセリルトリオレートと炭素数16~30のイソパラフィンの相乗効果であることもわかる。

## 【0014】

50 【表1】

検体	クレンジング効果	ウォッシュオフ性
実施例1	++	++
比較例1	+~++	±
比較例2	+	±
比較例3	+~++	+
比較例4	+~++	±

\*【0015】<実施例3~6>以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、イ、ロをそれぞれ70℃に加熱溶解し、イにロを徐々に加え、これを攪拌冷却し透明ジェル状の化粧料を得た。又、実施例2と同様に評価した結果を表2に示す。これより、本発明の化粧料に於ける炭素数16~30のイソパラフィンの好ましい含有量は、1~30重量%であり、更に好ましくは5~20重量%である

\*10

イ		10	重量部
グリセリルトリイソオクタネート		3	重量部
クリストール70*		0.5	重量部
クレアロール*		2	重量部
ジグリセリンテトラオレート		0.3	重量部
POE(20)セチルエーテル		3	重量部
POE(10)硬化ヒマシ油		1	重量部
POE(10)オレイン酸エステル		2.5	重量部
POE(20)POP(30)-		1.8	重量部
2-デシルテトラデシルエーテル		5×10 <sup>-5</sup>	重量部
蔗糖脂肪酸エステル		1	重量部
POE(12)イソステアリン酸エステル		1	重量部
イソステアリン酸		1	重量部
フィトステロール配糖体		1.2	重量部
ロ		1.5	重量部
ジグリセリン		1	重量部
1,3-ブタンジオール		1	重量部
エタノール		1	重量部
トリエタノールアミン		3.1	重量部
水			

\*含有量は表2に詳細を示す。

【0016】

※※【表2】

	実施例3	実施例4	実施例5	実施例6
クリストール70	10重量部	30重量部	40重量部	52重量部
クレアロール	47重量部	27重量部	17重量部	5重量部

  

クレンジング	+~++	+~++	++	++
ウォッシュオフ	+~++	+~++	++	++

【0017】<実施例7~10>以下に示す処方に従つてクレンジング化粧料を作成した。即ち、イ、ロをそれぞれ70℃に加熱溶解し、イにロを徐々に加え、これを攪拌冷却し透明ジェル状の化粧料を得た。又、実施例2と同様に評価した結果を表3に示す。これより、本発明★

★のクレンジング化粧料が優れたクレンジング効果とウォッシュオフ性を有することがわかる。又、ジグリセリンテトラオレートの好ましい含有量は、0.1~30重量%であり、更に好ましくは1~10重量%であることもわかる。

イ		10	重量部
グリセリルトリイソオクタネート			
クリストール70**			

(5)	特開2000-26238
7	8
クレアロール	10 重量部
ジグリセリンテトラオレート (D G T O) **	
P O E (2 0) セチルエーテル	0. 5 重量部
P O E (1 0) 硬化ヒマシ油	2 重量部
P O E (1 0) オレイン酸エステル	0. 3 重量部
P O E (2 0) P O P (3 0) -	
2-デシルテトラデシルエーテル	3 重量部
蔗糖脂肪酸エステル	1 重量部
P O E (1 2) イソステアリン酸エステル	2. 5 重量部
イソステアリン酸	1. 8 重量部
フィトステロール配糖体	5 × 1 0 <sup>-5</sup> 重量部
口	
ジグリセリン	12 重量部
1, 3-ブタンジオール	1. 5 重量部
エタノール	1 重量部
トリエタノールアミン	1 重量部
水	3. 1 重量部

\*\* 詳細な含有量は表3に示す。

【0018】

\* \* 【表3】

	実施例7	実施例8	実施例9	実施例10
クリストール70 D G T O	22重量部 35重量部	27重量部 30重量部	42重量部 15重量部	55重量部 2重量部
クレンジング ウォッシュオフ	+~++ +~++	+~++ +~++	+~++ +~++	++ ++

【0019】<実施例11>以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、イ、口をそれぞれ70℃に加熱溶解し、イに口を徐々に加え、これを攪拌冷却し透明ジェル状の化粧料を得た。このものは良好な※

30※ クレンジング効果 (+~++) とウォッシュオフ性 (+~++) を有していたが実施例1のクレンジングには明らかに及ばなかった。これより、多価アルコールとしてジグリセリンを含有することが好ましいことがわかる。

イ	
グリセリルトリイソオクタネート	10 重量部
クリストール70 (炭素数16~22のイソパラフィン、ウィトコ社製)	47 重量部
クレアロール	10 重量部
ジグリセリンテトラオレート	3 重量部
P O E (2 0) セチルエーテル	0. 5 重量部
P O E (1 0) 硬化ヒマシ油	2 重量部
P O E (1 0) オレイン酸エステル	0. 3 重量部
P O E (2 0) P O P (3 0) -	
2-デシルテトラデシルエーテル	3 重量部
蔗糖脂肪酸エステル	1 重量部
P O E (1 2) イソステアリン酸エステル	2. 5 重量部
イソステアリン酸	1. 8 重量部
フィトステロール配糖体	5 × 1 0 <sup>-5</sup> 重量部
口	
グリセリン	12 重量部

9

1, 3-ブタンジオール  
エタノール  
トリエタノールアミン  
水

10

1. 5重量部  
1 重量部  
1 重量部  
3. 1重量部

【0020】<実施例12>以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、イ、ロをそれぞれ70℃に加熱溶解し、イにロを徐々に加え、これを攪拌冷却し透明ジェル状の化粧料を得た。このものは良好な\*

\* クレンジング効果 (+++)とウォッシュオフ性 (+~++)を有していたが実施例1のクレンジングには明らかに及ばなかった。これより、多価アルコールとしてジグリセリンを含有することが好ましいことがわかる。

イ

グリセリルトリイソオクタネート  
クリストール70  
(炭素数16~22のイソパラフィン、ウィトコ社製)

10 重量部  
47 重量部

クレアロール  
ジグリセリンテトラオレート  
POE(20)セチルエーテル  
POE(10)硬化ヒマシ油  
POE(10)オレイン酸エステル  
POE(20)POP(30)-

10 重量部  
3 重量部  
0.5重量部  
2 重量部  
0.3重量部

2-デシルテトラデシルエーテル  
蔗糖脂肪酸エステル  
POE(12)イソステアリン酸エステル  
イソステアリン酸  
フィトステロール配糖体

3 重量部  
1 重量部  
2.5重量部  
1.8重量部  
 $5 \times 10^{-5}$  重量部

ロ

1, 3-ブタンジオール  
エタノール  
トリエタノールアミン  
水

13.5重量部  
1 重量部  
1 重量部  
3.1重量部

【0021】

メークアップ化粧料を落とすのに好適なクレンジング化

【発明の効果】本発明によれば、近年の化粧持ちの良い 30 粒料を提供することができる。